



©(有)スタジオオクルー 油野順平

# 走り幅跳びに夢をかけるアスリート

陸上選手 倉内未来さん

くらうち みらい / 1994年生まれ。2009年青森県立青森第二高等養護学校に入学し、陸上競技部所属。2012年養護学校卒業後、マクドナルド青森東バイパス店で働きながら、陸上選手として活動。さまざまな大会で活躍し、2017年には第22回関東パラ陸上競技選手権大会女子走り幅跳びで大会新記録で優勝。

も恩師とともに「日本ID陸上競技選手権大会2012」に参戦し、世界を意識するようになりました。今は、走り幅跳びをメインの種目にとりこんでいます。

活躍する倉内さんですが、青森では障害者スポーツの認知の広がりや長い期間の雪などで陸上競技者の練習の場が限られています。そんな環境でもがんばっている倉内さんを知ってもらうために社団法人「ミライ・ハンデイクヤップ・スポーツ・チャリティーズ」が東北、青森から世界レベルの選手となり、みんなの目標とする存在になってほしいとねがって選ぶ「バイオニア」の第1号となりました。また、2014年には、日本知的障害者陸上競技連盟のパラリンピック重点指定強化



▶走り幅跳びの練習をする倉内さん

## ■陸上競技の魅力を

もともと走るのが好きで、バスケットボールや球技系のスポーツを楽しんでいました。2009年、青森第二高等養護学校1年生のときに、体育教師だった長谷純子先生に陸上の全国大会に出てみたいかと声をかけられ、先生が顧問をする陸上競技部に所属しました。学校時代の3年間、「青森県障がい者スポーツ大会 陸上競技の部」に出場し、2010年、2011年は青森県選抜選手となるなど、県内では負け知らずでした。卒業後

障害があっても大きな夢に向かって毎日がんばる、そんな若者が青森市にいます。倉内未来さん(23歳)、高校1年生のときに恩師の勧めで陸上競技に出会い、今は仲間と一緒に世界の舞台をめざしています。

## ■陸上競技の魅力

選手にも登録されました。その後もさまざまな世界選手権大会日本代表として活躍し、2015年には走り幅跳び世界ランク13位になりました。

「陸上の魅力はなんですか?」との問いには、「人に感動を与えられること」「大会で優勝したり、記録を更新する達成感もあるけれど、みんなと走れたり、練習したりすることがとにかく楽しい」と言います。



▶青森大学陸上部の仲間とともに

特集 ドリーム ゆめむかかって

現在は、青森大学陸上部の木原博監督の指導のもと、15人の陸上部の仲間と練習に励んでいます。陸上にとりくむなかで自分も仲間も驚くほど変わり、成長していくことが感じられる。大会では自分も仲間も競技の一举一動に喜び合い、励まし合い、心が一つになりがんばることができると語ります。みんな走るのが速くて、励みになるそうです。陸上が本当に好きな気持ちが伝わってきます。

あこがれの選手は、ロシアの走り幅跳び選手のダリヤ・クリシナ選手です。陸上競技で活躍する人気の選手です。

ライバルについて聞いてみると、「ライバルは特にいません。世界のレベルを意識しています」と話します。視線はもう世界を向いています。

## ■働きながら陸上に打ち込む

倉内さんは、現在、マクドナルド青森東バイパス店で正社員として働いています。仕事は、はじめのうちは大変だったとのことですが、「自分で勉強をして仕事ができるようになって、今はとても楽しい」と言います。仕事と陸上の両方に励む毎日です。

余暇の過ごし方を尋ねると、「練習や筋トレをしています」とのこと。また、「おしゃれも好きです。寝ることも好きです」と話します。走り幅跳びは瞬発力を鍛えることが必要で、苦しくても筋トレにとりくみ、寝ること、食べること、毎日の生活の一つひとつが大事だということです。

## ■夢はパラリンピック

最後に、倉内さんの夢を聞くと、「東京パラリンピックをめざして記録を上げていけるとうれしい」と話してくれました。東京パラリンピックは、夢であり、今はもう目標でもあるのだと思います。

## 取材を終えて

30分ほどの取材でしたが、全障研の夢であり目標であるインクルーシブな社会を少し体験できたような気持ちになりました。とても清々しい時間でした。夢を目標とし、仲間と力を合わせて前に進んでいってほしいと思います。

(全障研青森支部 松島明)

